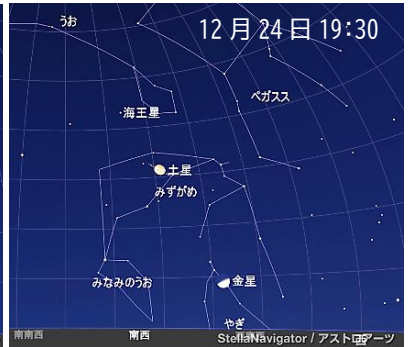


## ★今月の星もよう★

## 第121号

惑星は拡大しています。

すっかり気温が下がり、日没が早くなる季節になりました。12月21日は、1年の中で最も夜が長い「冬至」です。長い時間夜空が見えるこの時期に天体を観察してみましょう。今月は惑星に注目です。日没後の南西の空には宵の明星「金星」が見え始め、-4.2等の明るさで輝きます。南の空には「土星」が、東に目をやると金星に負けにくいに輝いている「木星」(-2.8等)が、おうし座の位置に見えます。21頃には、ふたご座の下方に赤く輝く「火星」が姿を見せ始めます。明るい冬の星座たちも昇ってきて、東の空はとてにぎやかです。16日頃からは、明け方の南東の空に「水星」も見え始め、肉眼で見える5惑星全てが、夕方から明け方にかけて観察できる絶好の機会です。ちなみに、肉眼で見えるのは難しいですが、うお座には「海王星」が、おうし座には「天王星」が位置しています。また今月は、月がこれらの惑星に接近します。月は、5日の日没後に金星に、8日の18時頃に土星に、14日の日没から翌日の明け方にかけて木星に接近します。特に8日は、土星が月に隠される「土星食」が起こります。



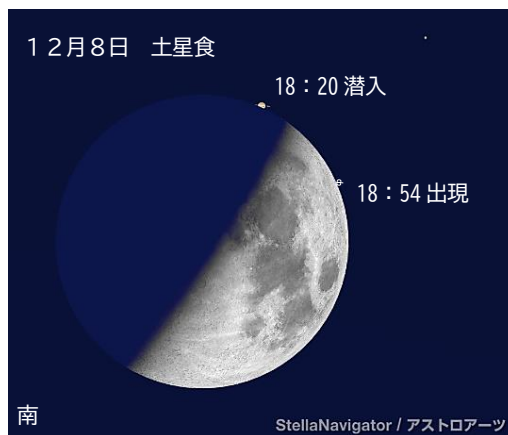
## ★ふたご座流星群★

三大流星群のひとつで夏の「ペルセウス座流星群」と並んで多くの流星が見られる「ふたご座流星群」は、今年12月14日午前10時頃に「極大」(流星が最も多く出現するとき)を迎え、13日夜から14日明け方にかけて多くの流星が見られると予想されています。ふたご座流星群は、ふたご座のある1点から四方八方に流星が飛び出していくように見え、このような点を「放射点」と呼びます。今年はふたご座の近くのおうし座に満月近くの明るい月があるので、月明かりが眩しい場合は、月とは反対側の空を見るのもおすすめです。



## ★土星食に注目★

12月8日、日没後の南西の空に上弦前の月と土星が大接近して見え、南中した月が土星を隠す「土星食」が起こります。豊川では、18時19分頃から月の暗部に土星が潜入し、約1分かけて月に完全に隠れ、その後18時54分頃から月の明部から再び出現します。肉眼でも見られますが、双眼鏡や天体望遠鏡があれば土星が月に隠されていく様子が観察できます。惑星が隠される現象は珍しいですので、ぜひ観察してみましょう。



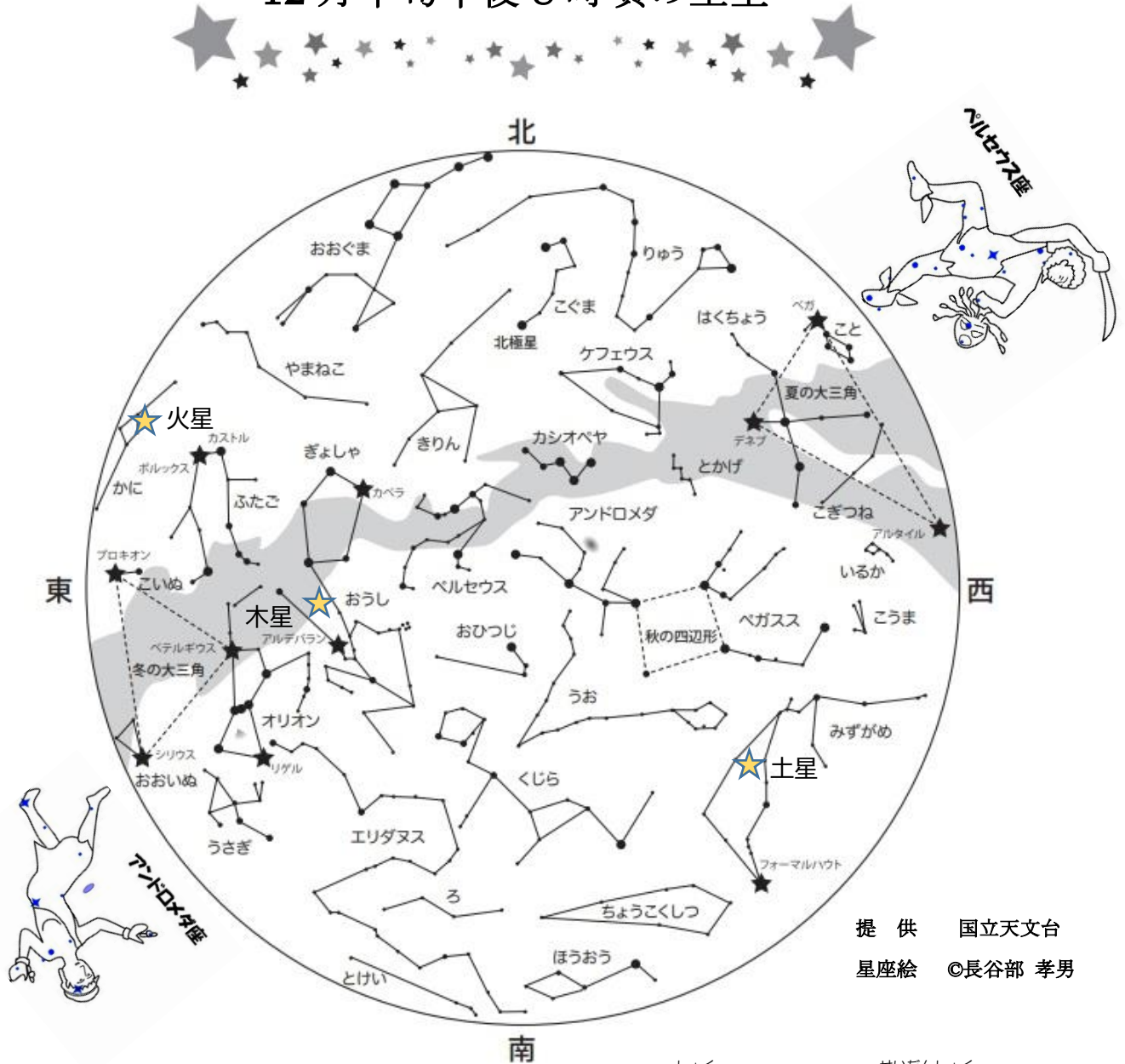
観察する場所により時間は前後します。

☆プラネタリウムの内容については、別刷りの「投影案内」をご覧ください

☆プラネタリウムのお休み

12/2(月)、9(月)、16(月)、18(水)、23(月)、29(日)、30(月)、31(火)

# 12月中旬午後8時頃の星空



提供 国立天文台  
星座絵 ©長谷部 孝男

## ★ 12月の主な天文現象 ★

## すばる食 (プレアデス星団食)

1日(日)	● 新月
8日(日)	● 土星食
9日(月)	● 上弦
14日(土)	ふたご座流星群が極大 プレアデス星団食
15日(日)	● 満月 コールドムーン
21日(土)	● 冬至
23日(月)	● 下弦
25日(水)	おとめ座 α 星スピカ食
31日(火)	● 新月



おうし座にある散開星団 M45 「プレアデス星団」は、日本では「すばる」という呼び名で親しまれており、12月14日の明け方には、月がすばるを隠す「すばる食」(プレアデス星団食)という現象が起こります。下図のように、時間とともに月が星団の星々を隠す様子が見られますので、西北西が開けた場所で、双眼鏡や天体望遠鏡を使ってその動きを観察してみましょう。

※視野円は5°

